

ピアノづくりのあまりもの、実はたからもの！？

SDGsラジオを読んでみよう！

ものをつくる時、あまってしまふものってありませんか？

たとえば、工作をしたときの紙の切れはしや、料理をしたときの野菜の皮など、何かをつくとあまる部分や、いらなくなる部分が出てしまいます。

そこで、ピアノをつくっている会社「河合楽器製作所」では、

ピアノづくりで出るあまった部分をすてずに、リサイクルする取り組みを進めています。

ピアノの材料は、木や金属、フェルトなどで、木をけずって形を整えたり、フェルトを加工したりすると、木のくずや粉、フェルトのくずが出ます。

木のくずや粉は紙などに、フェルトのくずは土を元気にする肥料などにリサイクルされているんですよ。

ただすてるのではなく、形を変えてまた役立つことは、地球へのやさしさにつながっています。

みなさんも、身のまわりにもう一度使えるものがないか、探してみてくださいね。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



ピアノをつくっている会社「河合楽器製作所」では、ピアノをつくるときに出る「あまりもの」を、できるだけすてずに再利用する取り組みを進めています。ピアノには、木や金属、フェルトなど、さまざまな材料が使われています。木をけずって形を整えると木のくずや木の粉が出たり、フェルトを加工するとフェルトくずが出たりします。このように、ピアノをつくるときにはどうしても使わなかった部分が出てしまうのです。

画像参照：木をけずって形を整えているようす（河合楽器製作所公式HPより）



ピアノをつくるときに出た「あまりもの」がいろいろなものへとリサイクルされています。

河合楽器製作所では、こうしたあまりものをそのまますてるのではなく、もう一度役立つ工夫をしています。木のくずや木の粉は紙などの材料に生まれ変わり、フェルトくずは土を元気にするたい肥などにリサイクルされています。本来ならすてられてしまうものでも、形を変えてもう一度使うことで、新しい役わりを持つことができるのです。使い終わったものを新しいものへと生まれ変わらせることで、ゴミを減らし、地球への負担を少なくすることにもつながっています。ものを大切に使い、限りある資源をくり返し活用していくことは、地球の未来を守るためにもとても大事なことです。

キーワード

フェルト

羊の毛などからつくられるやわらかい布のような材料で、ピアノにも使われています。

たい肥

落ち葉や食べもののくずなどを発酵させてつくられる、土を元気にするための肥料です。

資源

木や水、金属など、ものをつくるために使われる大切な材料のことで。

対象ゴール



みなさんにできること！

ふだんはすてているものでも、もう一度使えないか考えてみましょう。

おさらい

- 河合楽器製作所では、ピアノづくりで出る「あまりもの」をリサイクルしている。
- 木のくずや木の粉は紙に、フェルトくずはたい肥などに生まれ変わっている。
- ものをくり返し使うことは、ゴミを減らし、地球を守ることに繋がっている。

メモ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

